



生まれることのできなかった
出あうことができなかったいのちも含めて
すべてのいのちは大事にされるためにある
私も そのいのちに支えられ 生きている

岸畑 聖月

今月の写真

「The CARE」の様子(上)株式会社With Midwifeのオフィスの様子(下)。
「助産師が身近な存在になることで多くの社会課題を解決したい」と事業に取り
組む岸畑さん。いのちの現場で日々さまざまないのちと向き合うことを通して
何を思うのだろうか(2・3面参照)。

CONTENTS

2・3面

人間といういのちの相

いのちに寄り添う
岸畑 聖月さん



6・7面

特集

親鸞聖人のご生涯
「御誕生」と「立教開宗」の原点



10・11面

真宗本廟お煤払い執行

第57回「京の冬の旅」において
大寝殿、白書院を一般公開

ほか



4面

現在を生きる

御同朋・御同行からの問いかけ
～是施陀羅の課題～ 第15回

5面

親鸞聖人にであう

第7回

8面

今月の法話 第29回

9面

慶讃NEWS

同朋新聞

どうぼうしんぶん

Dōbō Shimbun

2

Vol. 783 February 2023

Shinran
500th

南無阿弥陀仏
人となられたことの意味をたずねていこう



慶讃特設サイト

検索

発行所
真宗大谷派宗務所
代表者 木越 渉
編集／東本願寺出版(真宗大谷派宗務所出版部)
〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上る
TEL.075-371-9189(東本願寺出版)
購読料 無料
送料 1部1万円1,300円(部数により変動)
振替口座番号 01000-6-27404
加入者名 東本願寺出版部

宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要

【第1期法要】3月25日～4月8日 【讃仰期間】4月9日～14日 【第2期法要】4月15日～29日

連載

人間としてのいのちの相がた



得、職場復帰までの約2年間、時には助産師がご自宅へ伺って支援します。企業全体に対しては、相談実績から見えてきた課題をもとに企業にとって今後必要な取り組みの提案や、従業員一人ひとりの経験や能力、多様性を認めあい、それが活かされる企業の雰囲気醸成を目的とした研修も行っています。

また、助産師は医師と同じく、開業権があります。病院以外の場で開業しているフリーランスや、施設を作った開業している助産師を検索し、サービスを受けられる検索サイトを運営しています。そして、性教育を学べるボードゲームの開発、助産師自身のスキルアップのためのカリキュラムの開発や運営も行っています。

――相談窓口へ寄せられる相談の約3割が男性からとお聞きしました。男性からの相談で一番多いのが心の

不調に関する相談、その次が育児に関する相談、3番目が人間関係に関する相談です。30代からの相談が多いですが、心の不調に関する相談は50代の方からの相談が多い状況です。家庭では、お子さんが高校生、大学生になり、教育費がかかるようになって父親としての責任感が増す時期であり、会社においても上司になっていく、いわゆる責任世代です。また、健康の面では、男性も加齢とともに男性ホルモンが徐々に減少していきます。50歳くらいになると、更年期症状が出る場合もあります。心や体の不調を抱える男性が気軽に相談できる窓口は少なく、「The CARE」では匿名で相談できることもあり、相談しやすいという背景もあります。助産師のイメージでは女性、出産というものが強いですが、社会を構成しているのは女性だけではないですよね。男性にも助産師を活用したり、私たちのスキルを受けとめてもらっていることに感謝の気持ちでいきたいと思います。

生まれることのできなかつた、たつたひとつのいのちでさえも取り残されない未来」の実現「ということを会社の理念の一つとして掲げられています、そのことについて

「生まれることができなかったいのち」とは、「オギャー」と生まれたいのちだけでなく、流産や死産という経過をたどったいのち、ほしいと願いながら、妊娠できなかった人の痛みをも包括しています。私たちが事業を考える時、まず、そういういのちの存在を忘れない。私たちが提供するサービスがそうした人たちにとっても有効なものなのかどうかを常に頭の中に置くことを大切にしています。

実際、企業のサポートをさせていたでいる中で、妊娠したご依頼が来た後に、中には流産、死産という経過をたどる方もいらっしゃいます。その場合、私たちは無事に生まれてきた時と同じ回数と期間、グリーンフケアを無償で提供しています。元気に生まれるのが当たり前という期待を持っていた分、全然違う結果である死というものに出会う辛さ。それを受け入れるまでのショックや悲嘆、怒りで心が大きく揺れ動く時、何かをしてあげるといふより、まず、そばにいて「聞く」ということが大切だと思うのです。時間とともに傷は癒えると言われますが、死を受け入れるまでにはさまざまな感情が起こり、動揺を繰り返します。自分の気持ちを家族や友人にも伝えることができない方も中にはいらっしゃると思います。自分の気持ちを言ってもいい場所、人がいるという安心感を持つては

しいいつでもどこでもSOSを出せる存在がいると伝えることを大切にしています。その中で共感したり、今、必要なサポートを教えてくださいたりしながら、一人ひとりに関わっています。

――一人ではないという安心感が人を支えていく。寄り添うということの大切さをあらためて感じました。

現代の妊娠、出産、子育てには、見守る目や、寄り添う人といった人的サポートの少なさによる孤独という課題があると感じています。それは深刻な課題であるにもかかわらず、取り残されているのではないのでしょうか。地域のコミュニティが希薄化し、見守ってくれている人がいないことに加えて、仕事をしている場合、会社の人、あるいは家族からも「妊娠したんだったら業務調整しなきゃいけないよね」とか、「お休みの間の業務を他の人に割り振らないといけないから負担になる」といった批判的な目を向けられてしまふ。電車に乗っていても「ベビーカー大きいな」、「子どもが泣いてうるさい」という言葉を浴びる時もあります。病院で出産後、誰にも頼ることができず、たった一人で子育てをせざるを得ない方もいます。退院された後、赤ちゃんと二人でたくさん荷物をもって車で帰る方を見送った時、どんな気持ちで帰られるのだろうか、胸が張り裂けそうになったこともあります。

今、妊娠子育てしている人たちが

社会の中でマイノリティになってしまっていないでしょうか。さまざまな場面で助けてもらえない、温かく見守ってもらえない経験をしている方が多くいます。妊娠、出産、子育てという期間の中で、自分が大切にされたという実感があれば、もう一回そこに立ち返りたいと思うのではないのでしょうか。

――いろいろな背景を通して誕生し、関係の中で育って、生きていくいのちについてどのような願いをお持ちでしょうか。

同じことの繰り返しになってしまふかもしれませんが、助産師としてのいのちの現場で日々さまざまないのちと向き合うことを通して私が思うことは、世の中に「オギャー」と生まれてくることだけがいのではないということ。そして、目には見えないいのち、出あったことのないいのちによって私も生まれてくることができ、そして、そういういのちに支えられているということを感じています。そして、生まれることのできなかつた、出あうことができなかった、たつたひとつのいのち。そういういのちも含めて、すべてのいのちは大事にされるためにある。だから孤独であってほしくないと思うのです。これからも、助産師が産前産後の時だけではなく、あらゆる人にとって身近な存在であるということが社会で認知されるよう取り組んでいきたいと思っています。(一)

同朋新聞

助産師を目指して

――岸畑さんは、なぜ助産師になろうと思ったのですか。

私は14歳の時に病気になる、将来、妊娠、出産をするのが難しいとわかりました。その時にお世話になった婦人科の先生にあこがれて、初めは産婦人科医になりたいと思いました。その直後に、近くの家庭でネグレクト、育児放棄があり、周囲から母親だけが責め立てられているのを目撃しました。私は、病気がわかった直後だったこともあり、その人は自分ができない妊娠、出産を成し遂げたのに、どうして誰も助けてあげないのだろう、助けられるタイミングはいつだったのだろう、そのタイミングから関わればこんなことは起きなかったのではないかと考えたのです。女性が妊娠、出産を経て母親になる過程を支えられるのは、専門

職として産前から産後まで長く寄り添える助産師だと感じ、助産師を志しました。

――お互いに助けあうことが難しい現状を14歳、中学生の時に目の当たりにされたのですか。

助けるということ言えば、自助、共助、公助ということがありますが、日本は島国ということもあるのか、自助が求められやすい国民性ではないかと感じています。それは、子育てや介護においてもそうで、自分自身や家庭の中でどうにかしなければならぬ。そういう考え方の中で問題が起こると、周りは共助ではなく、批判的な目を向けてしまふ現状が今もあります。14歳の時の私は、自分が手を差し伸べられていないことを強く感じたのです。

――助産師になられて4年目に現在の会社With Midwifeを立ち上げられましたか、どのような願いがあったのでしょうか。

助産師を目指して学んでいた学生時代から会社の構想があり、助産師になつて10年後ぐらいに起業したいと思っていました。しかし、助産師になつて病院に勤務していた時、学校で学んだ数字だけでは見えてこない、つらい現実を目の当たりにしたのです。日本は、赤ちゃんが安全に生まれて、お母さんも亡くなるのが少ない国と言われていますが、失われる命もあります。例えば、少子化が問題となっている中でも、いまだ数多く行われている中絶、そして、不妊治療で望んでいたけれども生まれることのなかった命や、授かったけれども死産となつてしまった命。退院した後にお母さんが産後うつが引き金となつて自死されてしまわれたり、二週間健診でお母さんが病院にきた時、赤ちゃんが一緒にいなくて、どうしたのか尋ねると、「ご自宅で亡くなつていたり。目の前で起こったことにとてもしョックを受けました。医療がいくら

発達したとしても、勤務助産師では、どうしても手が差し伸べられない部分がある。そこにアプローチするための事業の構想が頭の中にあつて、それを10年温め続けている間に、救える命がどれだけ目の前で失われていくのだろうか。その思いから、7年前倒しして、会社を立ち上げる決心をしました。

社会課題を解決したい

――With Midwifeはどのような事業を行っておられるのですか。

以前、助産師は産婆さんと呼ばれ、妊娠中はもちろん、お産の介助をはじめ、産後も自宅に行つてお風呂の入れ方や授乳の仕方を教えたりしていました。それだけではなく、家族のめも事にちよと介入したり、学校でいのちの大切さを教えたり。地域の中でいのちの営みに関するさまざまなサポートをする存在だったので、第二次世界大戦後、GH



1991年生まれ。香川県出身。株式会社With Midwife代表取締役。大学時代に起業を経験し、助産学と経営学を学ぶため進学。京都大学大学院修了後、大阪市内の総合病院で助産師として働きながら、並行して中絶、虐待、産後うつなどの社会課題を院外でも解決できればと起業を決定。現在は企業に勤める女性やその家族を中心に従業員全体の健康や子育てを支援する「The CARE(ザ・ケア)」(旧称:顧問助産師)としての働き方を構築中。また助産師のためのコミュニティも運営し、病院雇用だけにとらわれない助産師の新しい働き方も提供している。

この紙面では、さまざまな人を通して、現代社会の抱える課題や人間そのものについて考え、宗祖御遠忌テーマ「今、いのちがあなたを生きている」、慶讃テーマ「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう」の学びを深めていきたいと思います。

通信員リレーレポート Vol.233

日本全国のご門徒の方々や各地で開かれている同朋の会を紹介します。

「右往左往している私に、「推進員をやってみないか」と住職から声をかけられました。当時の私は仏教を道徳や精神修行だと思っており、「悶々とした気が晴れるなら」とお誘いのことにしました。その後、受けた推進員養成講座(現・同朋の会推進講座)は新鮮でしたし、やる気もありましたが想像していたものとは全然違いました。難しくてほとんど

ろうともしなかった。たまに振る舞われるお菓子が一番の楽しみだった。そんな堀さんは45歳の時、21歳の長男を不慮の事故で亡くされる。あまりにも突然のことだった。事実を直視できず、受けとめることができなかった堀さんは「あの時もつこうしていれば」と、理由をつけては自分を責めた。



法泉寺聞法会の参加者の皆さんと(堀さんは前列右から3番目)

とも

九州教区 鹿児島組 法泉寺門徒

堀 欣容子さん(85歳)

堀さんは鹿児島県で生まれ育った。物心つく前から家族に連れられお寺で手を合わせていた。当時は浄土真宗が何なのか、何のために手を合わせているのか知りもしなかったし、知

現在を生きる

何を言っているのかわからなかったのですが、その時感じた身の引き締まる思いと、ありがたさは今でもしっかりと覚えています」。

法泉寺では毎月10日と28日に聞法会が開かれる。仏花は堀さんをはじめ、参加者で育てた花が荘厳され、聞法会後に開かれるお茶会では、自分たちが作ったお茶請けが並ぶ。

「現在私も85歳になり、生きつつも死につつもある身を実感する毎日ですが、日々の生活はどうしようもない相変わらずの私がいて、煩悩に振り回されるばかりです。だけど、お寺に集う友人たちとおしゃべりしたり、お互いの体を気遣ったりして、同朋として響きあいながら、報恩感謝の気持ちで聞法していきたいと思っています。たくさんの方から抱えきれないほどの思いをいただき、大きな「すまなさ」と大変な「ありがたさ」を感じながら日々、深く深く学び教えられています」と堀さん。

毎年、息子さんの命日には彼の親友から綺麗なお花が届けられる。その親友は自分の子どもに、堀さんの息子さんと同じ名前を付けたそう。



堀 欣容子さん(法泉寺にて)

九州教区通信員 樺 慈恩

御同朋 御同行 からの問いかけ

～是旃陀羅の課題～

第15回

今、問われていること(7) 經典の絶対視

2013年に『仏説観無量寿經』における「是旃陀羅」問題が部落解放同盟広島県連合会から指摘され、その後の対話における厳しい問いかけの一つに「經典の絶対視」があります。この言葉は、經典に説かれる「是旃陀羅」の語が差別的に機能している現状を受け止めきれずにいる宗門に投げかけられたものです。

この問題を最初に提起された全国水平社の井元麟之さんは、1940年に「旃陀羅」の語に対して語句の訂正、または經典からの削除を求められました。その時の応答は、「經典の語句は加減することはできません」というものでした。指摘された問題性には理解を示すものの、語句の訂正、もしくは削除に関しては頑なな姿勢に終始しました。

そのうえで、2013年に受けた指摘は、「私たちが使う言葉の中には差別語がある。差別語を使つてはならないということではなく、その言葉のもつ差別性を乗り越える文脈が必要

宗門が問われている『仏説観無量寿經』における「是旃陀羅」の語について、様々な視点からこの問題を考えていかなければなりません。このコーナーでは、これまでの歴史を振り返りながら、宗門に属するすべての人々が課題を共有できるよう情報を発信していきます。

となる。「是旃陀羅」のくだりに差別を乗り越える文脈はあります。か」というものでした。この問いかけの前に立ちすくんでいる私たちの姿勢について、「經典の絶対視」ではないのですか」と指摘されているのです。つまり、「是旃陀羅」問題から、本当に經典を大切にしているといえるのか、經典もしくは教えに真に向き合わずに無関心でいるのではないかとということが問われているのです。この「無関心」が「絶対視」につながるのです。無関心であるがゆえに、自分の中で問いが生まれず、「是旃陀羅」の語が差別的に機能していることを温存、助長しているのです。

部落解放同盟の米田富さんは「説教で片づくのなら明治百年とつきの昔に片づいています、説教だけで。生活が変わらんかぎりね(原文ママ)とおっしゃっています。差別の中を生きている私たちの生活から目を背けず、自分の問いとして考える中で、經典の言葉と向き合っていく姿勢が必要ではないでしょうか。」

この記事に関するお問い合わせ

解放運動推進本部

075-371-9247

kaho@higashihonganj.or.jp

月刊誌『同朋』お試し購読キャンペーン

(申込締切) 2月28日(火)

『同朋』2023年1月号～3月号までの3カ月分 通常2,100円(送料込)

通常の半額以下!

さらに 1,000円(送料込)

詳細は東本願寺出版ホームページをご覧ください



★お試し購読から引き続き年間購読をお申し込みいただいた方★

東本願寺ミニ手提げバッグ

★既にご愛読いただいており、本キャンペーンをお友達にご紹介いただいた方★

東本願寺文具セットをそれぞれプレゼント!

※ご紹介いただいたお友達が、お試し購読をお申し込みの場合に限りです。

ご注文お問い合わせは



東本願寺出版 HIGASHI-HONGANJI PUBLISHING

TEL:075-371-9189

詳しい書籍情報は 東本願寺出版 検索

龍善寺本堂・楼門新築工事(東京都新宿区)



西暦 578 年創業 社寺建築

剛 金剛組

本店/大阪・東京
支店/北海道・関東・名古屋・京都・九州
営業所/奈良・広島

☎ 0120-054-731

https://www.kongogumi.co.jp/

金剛組専属宮大工の匠の技をご覧いただける加工センターやギャラリーの見学会を行っております
どうぞお気軽にお問い合わせ下さい

真宗門徒として帰敬式(おかみそり)を受けましょう



「聞」

言葉が届いて
教えとなる

29歳となった親鸞聖人は、照る日も雨の日も休むことなく法然上人のもとを訪ね、ひたすらに本願念仏の教えを聞き続けられました。そこで目にしたのは、人々から「智慧第一」と称賛されながらも、自らを「十悪の法然房・愚痴の法然房」と名のる上人の姿であり、お話を聞いている「これで生きていける」と、生きる元気のよくなものをいただかれていく民衆の姿でした。

親鸞聖人は「なぜ上人は己の愚かさに領きながら、活き活きと生きていけるのか」、「念仏を称えるだけで、なぜ本当に生きるといえることが適うのか」、「そもそもわたしはどこで何に行き詰まりを感じているのか」等など、多くの問いを重ねながら教えを聞いていかれたことでしょう。そしておそらくは自身の抱える悩みや疑問を、時に一対一で直接上人にお尋ねになったことでしょう。

その親鸞聖人の問いに対して、上人がお答えになった言葉は何か。それはその時から50年程経った頃に、今度は親鸞聖人を師と仰ぎ「本当に生きる道」を尋ねに来られた関東のお同行に対してお答えになった言葉として『歎異抄』に残されています。

この親鸞においては、「ただ念仏して阿弥陀さんにたすけられなさい」というよき人、法然上人の言葉をいただき、それを信じているだけで、他に何かがあるわけではありません。(第二条 意訳)

親鸞聖人に であう

浄土真宗をあきらかにされた親鸞聖人。
大谷中・高等学校「京都」で
生徒とともに学ばれている乾さんと、
中高生の素直(リアル)な問いを手がかりに、
「人と生まれたことの意味」を
親鸞聖人のご生涯に学んでいきます。



いぬい ふみ お
乾 文雄

京都教区近江第5組
正念寺住職
大谷中学・高等学校講師

「今」

日は人間関係で大事だと思う
ことを漢字2文字の言葉で挙
げていこう！

「信頼」、「愛情」、「尊敬」、「忘
己」。

「忘己利他の忘己か。できるできない
は別として、よう覚えていたなあ。素
晴らしい！ ほな次は、やるべき大事な
ことを漢字1文字で表してみよう！」

「・・・」
「いや、その、愛するの愛とか、敬うの敬
とか」

「やっぱり信でしょ」

「そうやな。それは大事やな。ほなその
信はごで生まれるの。」

今日も授業は生徒とのやり取りで進
んでいきます。

「かなり昔の卒業生に授業の感話で教え
てもらったことやけどな。その生徒は人
間関係を二じらせて中学はほとんど不登
校やつてんて。でも、このままではだめ
だ、環境を変えてやり直そうと思い、少し
離れたうちの学校に来てくれたらしい。
1,2年はなんと欠席0。でも、急には変
わねず、友だちもできず。高3になった
時、このまま卒業なんて嫌やと心の底か
ら思つて、まず始めたのが周りの人の話を
聞くことやつてんて。それで彼女は気づい
た。私が仲間外れにされていたんやない。
今まで人の話を聞かずに勝手にふさぎ込
んでた自分がただけ。関係が作れない
のは周りのせいやと決めつけていたけど、
自分が問題やつたんやというこに。それ
で勇気を出してごちないけどみんなの
会話に加わるようになっていったら、話し
かけてくれる人にも聞いてくれる人にも
出あえた。これを友達というんやつて気づ
いた。最後に泣きながらみんなありがと
うと言つてくれたんよ。僕も泣いてもう

たけど、みんなも泣いてこない？」

「感話の後でその子と話して、禅語の
『花開かば蝶自ずから来る』やなあを伝
えたら、意味がスーッと伝わったよう
で。それな〜と言われたのを覚えている
わ。この話を聞いた時に、課題は異なれ
ど本質は親鸞さんと法然さんの「出遇
い」と同じやなと思ったのよ」

「本当に大切な出遇いは聞くことから始
まるんやろうな。そして聞いたことを元
に自分を問う。さらには問うことで見え
てきた自分を安心して開く。そうしたら
それに対してきちんと答えてくれる人
がいて、また聞くことが始まる。この
「問・問・開」という循環の中で関係を生
きていくことが大事なんやろうな」
「ところで問・問・開のうち、自分が一番
できていないと思うのはどれ？」

なぜ親鸞さんは「ただ念仏して阿弥陀さ
んにたすけていただく」という言葉に救わ
れたのでしょうか。ある先生が、「当時の比
叡山にも優れたお坊さんはいっぱいたは
ずなのに、なぜ法然さんによつて救われた
のか。それは法然さんが親鸞さんの課題を
きちんと聞いて受けとめた上で、それな
らあなたは阿弥陀さんに救ってもらえばい
いではないですか」と答えられたというこ
とでしようね」と教えてくださいました。

つまり、この言葉が与えられる前に、法然
さんが親鸞さんの話をしっかりじっくりと聞
いてくださったというのが大きいと言われた
のです。だからこそ、やつと問いと答えが一
つにつながったということではないでしょ
うか。自分自身の問いが明らかに前に教え
を与えられても、その教えが光を放ち、道が
開かれるということはないのでしょうか。

「弟子に準備が整った時、師は現れる」
チベットに伝わることわざが語りかけてき
ます。

親鸞聖人の御生涯

いよいよ来月より、宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百周年慶讃法要が勤まります。その歴史的な節目に際し、本特集では、宗祖の「御誕生」と真宗門徒における「立教開宗」について、その原点をたずねてまいります。

教学研究所

「御誕生」と「立教開宗」を慶ぶ

親鸞聖人の「御誕生」

親鸞聖人は、一二七三(承安三)年から一二八二(弘長二)年にかけて、九十年の御生涯を送られました。亡くなられた日は十一月二十八日(旧暦)と明かですが、誕生された月日ははっきりしていません。しかし、真宗大谷派(東本願寺)では毎年、春の法要期間中の四月一日に親鸞聖人御誕生会(音楽法要)が勤まっています。

真宗教団の中で、この四月一日という月日を明示した最初期のものは、十八世紀前半に刊行された高田派の親鸞聖人伝です。この伝記には親鸞聖人の母が如意輪観音から夢告を受けたエピソードも語られています。

また、親鸞聖人は、日野の里(京都市伏見区)で誕生したと伝えられています。そのことを記した最も古い



小早川好古「日野誕生」(青蓮院所蔵)

文献は、一八二六(文政九)年に本願寺派の僧侶が書いた『聖人御降誕地由縁』です。このように、誕生の月日と場所が定められてから、

新たな法要のかたち

一九三三(大正十二)年四月、東本願寺において「立教開宗七百年記念法要」(九十五日)が営まれ、また西本願寺でも「立教開宗七百年記念慶讃法要」(二十五日)が催されました。

それまでの東本願寺では、堂内での勤行を出した僧侶だけで行ってきましたが、この時、初めて参詣した門徒も一緒に「正信偈」が唱和されました。これが「同朋唱和」の始まりです。また、真宗各派協和会(真宗教団連合の前身)は、公募した中から選んだ「真宗宗歌」の歌詞を、立教開宗の法要にあわせて発表しました。

そして一九六一(昭和三十)年の宗祖聖人七百回御遠忌法要で初めて仏教音楽を取り入れた音楽法要(四月二十一日)が勤まり、翌年四月一日に営まれた宗祖聖人御誕生誕慶讃法会以降、親鸞聖人の御誕生を慶ぶ法要が音楽法要として勤まることとなりました。



1973(昭和48)年慶讃法要写真(『真宗』1973年5・6月合併号)

親鸞聖人の御生涯(略年表)

西暦	元号	事項
1173	承安三	誕生。
1181	養和元	慈円のもとで出家し、範要と名のりという。堂僧をつとめていた比叡山を出て、六角堂に参籠する。九十五日目に聖徳太子の夢告を受け、法然上人の門に入る。
1201	建仁元	十一月、七箇条制誡に「僧緯空」と署名する。法然上人より『選択本願念仏集』の書写と、真影の図画を許される。
1204	元久元	※興福寺の衆徒、専修念仏の宗義の糾改を求め。(興福寺奏状)
1205	元久二	二月、専修念仏停止により法然上人らとともに罪に問われ、越後への流罪となる。(承元の法難)
1211	建暦元	十一月、法然上人とともに赦免となる。
1212	建暦二	一月、法然上人入滅。
1214	建保二	越後から関東へ向かう途中、上野佐貫で三部経千部読誦を行うが中止。常陸へ向かう。
1224	元仁元	※この年、日照りが続く。
1231	寛喜三	この年が、すでに末法に入っていることを確認する。『教行信証』
1234	文暦元	※五月、延暦寺の衆徒が専修念仏の停止を求める。末娘の覚信尼誕生。
1235	嘉禎元	四月、病床で『大無量寿経』を読むが、建保二年の三部経千部読誦の反省を思いかえし中止する。
1247	宝治元	※このころ、全国的な大飢饉。
1248	宝治二	このころ、関東から京都へ帰る。
1255	建長七	門弟の尊運『教行信証』を書写。
1256	康元元	門弟の専海『教行信証』を書写。
1257	正嘉元	五月、息男善鸞を義絶する。
1262	弘長二	二月、「弥陀の本願信ずべし」の夢告を受け、閏三月に『正像末和讃』を書き入れる。
		十一月二十八日、善法坊で入滅。

今、私たちにとって「立教開宗」とは

立教開宗

真宗大谷派の宗憲には、この宗門が世に存在する目的について「本派は、宗祖親鸞聖人の立教開宗の精神に則り、教法を宣布し、儀式を執行し、その他教化に必要な事業を行い、もって同朋社会を実現することを目的とする」(第一章総則・第二条と示されています。ここでいわれる「宗祖親鸞聖人の立教開宗の精神」とは、どのような精神でしょうか。

「立教開宗」について、辞書には「釈尊一代の教説の中から根拠とすべき經典を選び、これによって教を立て、一宗を開く」という意(『真宗新辞典』)などと解説されています。また、このたび立教開宗八百周年の慶讃法要が勤まるのは、宗祖の名著『教行信証』の「化身土巻」に記された「元仁元年」(一二二四年)を基点としています。そして、その年が「立教開宗」と定められたのは近代に入ってからのもので、一八七六(明治九)年に真宗四派(本願寺派・大谷派・高田派・木辺派)の協議によって決められました。その背景には、近世以来、『教行信証』が「立教開宗の書」と呼ばれてきたことと、その終盤に記された「元仁元年」が、『教行信証』草稿本の完成年と見なされてきたという伝統がありました。また、一八七二(明治五)年に、江戸時代からの念願であった「真宗」という宗派名の公称化が実現したことも深く関わっていたことでしょう。

末法の悲しみ、遇法の慶び

それでは、宗祖にとって「元仁元年」は、どのような機縁だったのでしょうか。『教行信証』「化身土巻」には、次のように記されています。

三時教を案ずれば、如来般涅槃の時代を勧うるに、周の第五の主、穆王五十一年壬申に当れり。その壬申より我が元仁元年甲申に至るまで、二千一百八十三歳なり。また『賢劫経』・『仁王経』・『涅槃經』等の説に依るに、已にもって末法に入りて六百八十三歳なり。

(『真宗聖典』三六〇頁)

自らの生きる時代我が元仁元年は、すでに「末法」に入りて六百八十三歳だということです。末法とは、仏道の「行」も「証」も成り立たないつまり、さとり(証)はもろろんのこと、そのための実践(行)も成り立たない時代をいいます。親鸞聖人は、その末法には成り立たないはずの「行」「証」が、念仏の「信」において成り立つと受けとめられました。また、この「元仁元年」には、比叡山から専修念仏停止の奏状が出されており、そこでは「まだ末法ではないので、自力の修行ですぐれた利益を得ることができ(取意)と主張されています。それに対して宗祖は、「すでに末法の時代に入って六八三年も経っているのだ」と、末法の深まりを悲しみつつ反論されたのです。

今あらためて、私たちが「立教開宗」の意義をたずねる時、宗祖が身をもって確かめられた末法の悲しみを忘れてはならないでしょう。その悲しみをくぐってこそ、念仏の教法に遇い得た機縁を慶ぶことができるのではないのでしょうか。

南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう

第29回

弱さに弱さで応答する

高田教区 第1組 光照寺

うめ ざわ 梅澤
み ゆう 未有

聞

今月の
法話

私は地域のフードパントリー(食糧支援)に、スタッフとして参加しています。母親と子ども連れの割合が一番多く、女性一人、三世代で来る人など、思っていたよりも多くの人が訪れます。

ある時、仲間が若い女性を見て「いい格好で支援を受けに来ている」というようなことを、つぶやきました。私は反射的に、「今は量販店で安い服も買えるし」と見当外れのことを言いました。それから、ふとした時に何度かこのエピソードが頭に浮かぶのです。支援を受けるのに相応しい見た目があるのでしょうか。「いい格好」で支援を受けている人を見て、自分も決して余裕があるわけでもなく、でも、日々精一杯頑張っている人たちにとっては、その服飾費を食費に回せるのでは、と思うのかもしれない。

「ヴァルネラビリティ(vulnerability)」という言葉があります。一般的に使われている単語ですが、生物学や経済学でも使用され「脆弱性」と訳されます。同時に「攻撃されやすいこと(攻撃誘発性)」という意味も持っています。「弱さを曝け出したまま」

「仏法は、聴聞にきわまることなり」(蓮如上人御一代記聞書)と教えられているように、真宗門徒は昔から仏法聴聞を大切にしてきました。日々の生活の中で仏さまの教えを聞いていただくことを願いに、毎月一話ずつ掲載します。

生きていることは「攻撃」に遭いやすいのです。

誰でも弱さを抱えて生きています。経済的な理由で食糧支援を受けることもそうなのかもしれません。「子どもが引きこもっている」「認知症かもしれない」「摂食障害に苦しんでいる」「職場で鬱になった」：身近にでさえ、まだまだ顔が浮かびます。多くの人は、そのような脆弱性、傷をどうにかうまく隠して、攻撃に遭わないように取り繕いながら、日常生活を送っています。けれども、社会的な環境やさまざまな事情で「弱さを曝け出したまま」しか生きざるを得ない「人たちがいます。そして、「弱さを曝け出したまま」でしか生きざるを得ない」時は誰にでもやってきます。病、老い、その先の死です。

親鸞聖人の応答が次のように示されます。

「念仏もうしそうらえども、踊躍歓喜のころおろそかにそうろうこと、またいそぎ浄土へまいりたきころのそうらわぬは、いかにとそうろうべきことにてそうろうやらん」と、もうしいれてそうらいしかば、「親鸞もこの不審ありつるに、唯円房おなじころにてありけり。

(『歎異抄』第九条『真宗聖典』二六二頁)

「親鸞もおなじ」と自らの弱さを差し出し、唯円の悩みに寄り添います。

現在のケアにおいても有効な手法の一つに「自己開示」があります。「私も…」「私の場合は…」と応答することで、相談者に寄り添います。この手法は、当事者で運営されるさまざまな自助グループでは定番のもので、古くはアルコール依存症のグループ(AA)から、子育て中の母親、薬物依存者、DV被害者、加害者など、さまざまな自助グループが存在しています。自助グループは同じ脆弱性、苦しみを抱えている人が集まり、明日を今日より少し上手く過ごすために、心の荷物を降

ろす場のひとつと言えます。

私自身も、親を自殺で亡くした悲しみを長年抱えたまま日常を送っている当事者のひとりとして、グリーフケア(大切な人を喪った遺族のケア)に関わっています。まだまだ知られていない活動ですが、その中でも多くの「生老病死」を扱ってきた寺院には言葉や論理では説明のできない「場」の力があると感じます。自坊でのワークショップ参加者は、時には涙を流し、何かを置いて帰ります。そしてその代わりに、たとえば、職場で何事もなかったかのように振る舞うしなやかさを、忘れていた故人の意外な一面の思い出を、気づくことができなかった身近な人のサポートへの感謝など、それぞれ日常に持ち帰ってくれます。

「自らの脆弱性を開示」して「同じ弱さを持った同じ仲間」として他人に寄り添う。誰もがさまざまな弱さを抱えて生きています。そのように振る舞うことでしか生きていけない弱者こそを、仏はあわれみくださいます。「親鸞もおなじ」との言葉に、普遍的なケアの姿、他者とともに歩む姿を再発見した思いがします。

時代を越えて輝き、生き続ける
親鸞の金言に出会う『歎異抄の輝き
—唯円が出遇った親鸞—』

親鸞聖人の滅後、弟子の唯円が自らのいのちとして輝き、生き続ける師の言葉を綴った珠玉の書『歎異抄』を丁寧にひもときます。善悪や損得に振り回され、迷いを深める私たちを導き続ける、親鸞聖人の金言に出遇う一冊です。

小野 蓮明 著 新書判 184頁／定価：968円(税込)

ご注文
お問い合わせは

東本願寺出版

TEL:075-371-9189

詳しい書籍情報は 東本願寺出版 検索

東本願寺御用達

日下念珠店

〒600-8174

京都市下京区烏丸通花屋町下ル

電話 (075)351-6325

フリ-FAX 0120-89-5255

定休日：日曜日

皆様の平安

平安は三つの信念で精進しています

- ① 優良な商品を吟味し御調製
- ② 価格も出来る限り勉強
- ③ 親切と誠意あるサービス

法衣、打敷、幕、会旗、念珠、
稚児貸衣裳

御本山用達

平安法衣店

京都市下京区東本願寺大門前(〒600-8153)
電話 京都(075)351-3681(代)
FAX (075)351-5563

きょうさん
慶讃NEWS

北海道教区
宗祖親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要お待ち受け大会
教区慶讃テーマ「共なる世界を願って」
— 北海道「開教」の歴史をかみしめ、一人ひとりの立教開宗へ —

12月3日から4日の2日間にわたり、札幌別院において北海道教区慶讃法要お待ち受け大会が開催され、サテライト会場を含め約300人が参加しました。新型コロナウイルス感染状況は第8波のピークを越え、道内での感染者数が減少傾向にある時期であったものの、感染予防として札幌別院の他、道内の5別院にサテライト会場を設け、多くの教区内寺族・ご門徒がリモートでの参加となりました。

3日には札幌別院において大谷暢文鍵役の剃刀による帰敬式が執行され、54人が受式。仏弟子として歩みだされました。4日の大会では、開催に先立ち、オープニングとして記念ソング『ヒカリコトバ』が札幌で活動するArt Wave Promotionによるダンスパフォーマンスとともに披露されました。この曲は、子どもから大人まで歌って踊れる曲を未来に残したいという願いから教区慶讃法要委員会が企画し、シンガーソングライターのモノノケユースケ氏と、ミュージシャンのオーノキヨフミ氏によって作詞作曲されました。

その後「正信偈」同朋唱和による勤行の後、引き続き「アイヌアートプロジェクト」代表を務める結城幸司氏による記念講演(講題「祈りという道 神話という川」)が行われました。150年前の現如上人による北海道「開教」の歴史を振り返った後、先住民族アイヌの人々との深い関わりや、アイヌ民族に対する差別問題について語られ、北海道に住む私たちにとって「知らなければならないこと」にあらためて向き合い、考えさせられる講演となりました。続いて、前教学研究所長である楠信生氏による記念講演(講題「共存と立教開宗」)が行われました。楠氏は、「立教開宗」とは「仏の教えを時代や人間の資質に応じて最も適切な道を知らせてくれることであり、私たちにとってそれは親鸞聖人がなされたことであった」と述べられ、単に宗派を立てたということではなく、浄土真宗という名で、悩む人々を目覚めさせてくれることであると教えられました。



記念講演(結城幸司氏、楠信生氏)

最後に石神忠信慶讃法要委員会副委員長が「本日のお待ち受け大会は、慶讃テーマを確かめる場であった。来年は本山でそのよろこびを皆でわかちあいたい」と挨拶し、大会が閉会しました。

当日の様子をYouTubeで
ご覧いただけます



(北海道教区通信員 矢田真之)

宗祖親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要
供茶・讃仰茶会のご案内

慶讃法要をご縁として、茶道裏千家 千宗室家元による「供茶」とそれに伴う「讃仰茶会」を開催します。

供茶(参拝自由)		
日	時	4月14日(金)10:00~10:50
会	場	御影堂
供	茶	茶道裏千家 千宗室 家元

讃仰茶会		
日	時	4月14日(金) 受付9:00~13:00
会	場	濃茶席/宮御殿(待合)、桜下亭(本席) 薄茶席/白書院

募集人数 80人
会費 3,000円(当日、受付にてご納入ください)
席主 濃茶席:茶道裏千家今日庵
薄茶席:茶道裏千家淡交会京都四支部学校茶道連絡協議会
協力 真宗大谷派学校連合会加盟校茶道部

<申込受付期間> 2月1日(水)~28日(火) ※当日消印有効
<申込方法> 「郵便往復はがき」の往信面に氏名(ふりがな)・郵便番号・住所・電話番号(日中、連絡がとれるもの)を、返信面に郵便番号・住所・氏名を明記し、下記申込先にお送りください。
※1通につき1名の申し込みとさせていただきます。
※申込者が多数の場合は、抽選により参加者を決定します。
※3月上旬に郵便はがきに於いて参加の可否についてお知らせします。

申込・問い合わせ

〒600-8167 京都市下京区烏丸通七条上る 常葉町754
真宗大谷派宗務所 内事部「供茶・讃仰茶会係」
TEL:075-371-9192 / FAX:075-371-0210 メール:naiji@higashihonganji.or.jp



宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌
供茶の様子(2012年4月1日)

誕生児念珠が新しくなりました

慶讃事業として取り組んでいる「青少年教化教材の制作」の一つとして、1月1日から、誕生児念珠の仕様が新しくなりました。誕生児念珠は、お子さま、お孫さんの誕生をお祝いし、お手次のお寺を通して、ご門徒に無償で贈呈されています。

今回のリニューアルでは、念珠の紐が赤ちゃんが舐めても色落ちしない素材に変更になったほか、パッケージも新たになり、お子さまの手形を押したり、名前も書けるようになりました。新しいいのちの誕生を機縁にお寺にお参りし、子どもも大人も生まれた意義と生きるよろこびについて考えてみませんか。

※誕生児念珠は、お手次のお寺を通してお申し込みください。
※青少年センター発行『ひとりから』第10号でお寺での初参り式について紹介しています。

詳細はこちら



ラジオで慶讃法要をPR

— 東本願寺公式YouTubeで公開しています —



京都のラジオ局・エフエム京都(α STATION)にて、2022年11月から2カ月間、慶讃法要に関する特別番組「ANOTHER VIEW OF KYOTO~東本願寺・慶讃法要エディション」が放送されました。

番組は、11月7日から12月26日まで、毎週月曜の15時から1時間枠で展開され、番組の前半では、東本願寺の歴史や年間行事、渉成園などを紹介。後半では、3月から勤まる慶讃法要について、法要の概要や、境内で行われる展示、行事等について、それぞれの担当者が出演し、催事の内容を紹介しました。

なお、番組後半部分は、昨年末より東本願寺公式YouTubeチャンネルで公開しています。ぜひお聞きください。

[YouTubeでの公開内容]

慶讃法要について/慶讃テーマ館の展示・催事/憩いのひろば・子どものひろば/門前エリアでの催事/子どものついでin東本願寺



門川京都市長と木越宗務総長

工事の進捗などは
こちらから
ご覧いただけます



このたび、「東本願寺前市民緑地」の整備に役立てていただくため、真宗大谷派(東本願寺)から京都市へ300万円を寄付しました。

昨年12月15日、京都市役所において受納式が行われ、木越渉宗務総長より門川大作京都市長へ目録が手渡され、市長より感謝状を贈呈いただきました。

受納式後は、なごやかな雰囲気の中、市民緑地整備の進捗や完成後の活用について歓談の場ももたれました。「東本願寺市民緑地」は、3月下旬に完成予定です。



大寝殿「古柳眠鷺」図

今回は、通常一般には非公開の諸殿の中から、大寝殿と白書院の2カ所を特別公開。大寝殿では、竹内栖鳳作の障壁画「風竹野雀」「歡喜」「古柳眠鷺」の三部作が間近に見られ、

法要のパンフレットを配布するなど広報も行う。

東本願寺では、昨年初めて「御影堂門楼上」の一般公開に協力。本年の冬の旅のテーマの一つに「親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年」も含まれることから、今年も協力するとともに、参拝の方へは慶讃

第57回「京の冬の旅」で大寝殿・白書院を一般公開

3月まで毎日開催

1月7日から3月19日まで、京都市と京都市観光協会が主催し、毎年冬に開催されるキャンペーン「京の冬の旅」に東本願寺が本年も協力している。「京の冬の旅」は、京都の文化財などの魅力を伝え、ゆつたりと観光を楽しんでいただくためのキャンペーンで、今年で第57回を迎える。



白書院

また、1991年に親鸞聖人六百五十回御遠忌に際し再建された白書院では、意匠をこらした欄間や障壁画を見ることができ、ご上山の際はぜひご覧いただきたい。

また、二つの書院を自由に見学できるコースのほか、職員が案内する「僧侶の案内による特別拝観」のコースも今年新たに実施(予約制)。3月11日までの毎週金・土の1日2回開催している。

京の冬の旅開催初日の前日となる1月6日には、来賓や報道関係者等を招待した内覧会が大寝殿で開催され、メディアを含めた関係者が多数来所した。期間中、東本願寺へは2万人以上の参拝が見込まれている。

※東本願寺の公開は3月16日まで
※2月27日、28日14:00～15:00は大寝殿、白書院の拝観休止



畳をたたき音が御影堂に響いた

参加者は、両堂の外陣から参詣席方向に横一列に並び、職員の掛け声とともに一斉に専用の竹棒で畳をたたきながら前進し、大うちわ役が舞い上がった埃を外へ扇ぎ出した。畳をたたき大きな音が境内に響きわたり、訪れた参拝者が興味深く見入っていた。作業後、新年を迎えるにあ

たり、新たにお給仕を始める儀式である「御規式」が行われ、大谷暢裕門首が長柄箒で「寿」の字をなぞった。この行事に、尾張清浄講と共に名古屋から上山されているのが尾張はじまり講。8年前に立ち上げられ、新型コロナウイルスの影響を受けながらも、お煤払いへの参加は今年で6度目になる。事務局を務めている名古屋教区第4組西恩寺住職の藤原猶真さん(49)は「座学では身にならない、体験を通して学びたい」という思いから講の立ち上げに携わられた。お煤払いのほかにも、蓮如上人御影道中、吉崎別院(福井県)御忌法要への御華束の寄進などを行っているそう。

真宗本廟 お煤払い―新年を迎える準備整う―

12月20日、真宗本廟においてお煤払いが執り行われた。お煤払いは御影堂と阿弥陀堂で1年間にたまったほこりや塵を払い出す大掃除で、本願寺第八代蓮如上人の頃から500年以上続く伝統行事。当日は、尾張清浄講(愛知県)をはじめ奉仕団の方々、近隣住民や職員あわせて約1000人が参加した。



藤原猶真さん

「ARTISTS' FAIR KYOTO 2023」が渉成園で開催



3月4日から12日まで、京都府、京都新聞などが主催するアーティスト主導のアートフェア「ARTISTS' FAIR KYOTO 2023」が、渉成園を会場に開催されます。

「ARTISTS' FAIR KYOTO」は、京都を舞台として、次世代のアーティスト支援、また来場者とアーティストとのコミュニケーションを生み出す場として好評のアートフェアで、今回で6回目を迎えます。

本年は、メイン会場である京都府京都文化博物館 別館、京都新聞ビル 地下1階に加え、初めて東本願寺の飛地境内地「渉成園(枳殻邸)」が展示会場に決定されました。渉成園内の通常非公開の茶室や書院などに、本イベントのディレクターも務める現代美術作家の椿昇氏をはじめ、池上高志氏、加藤泉氏、名和晃平氏、やなぎみわ氏など国際的に活躍する14組のアーティストと若手アーティスト9組による作品が展示されます。

渉成園へご来園の際は、ぜひ合わせてお楽しみください。

期 間 3月4日(土)～12日(日) ※渉成園での若手アーティストの展示、文化博物館、京都新聞ビル会場は4、5日のみ

時 間 9:00～17:00(最終入場16:00)

主 催 京都府、京都新聞、ARTISTS' FAIR KYOTO実行委員会

後 援 京都商工会議所、一般社団法人京都経済同友会

特別協力 真宗大谷派(東本願寺)

料 金 一般 2,000円/ 大学生 1,000円 (要・学生証)/高校生以下 250円 (要・学生証)(いずれも庭園維持寄付金含む)

※期間中も通常どおり渉成園の庭園を見学できます。庭園維持寄付金(500円以上)のご協力をお願いします。



渉成園

真宗大谷派 大谷婦人会 宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・ 立教開宗八百年慶讃法要(音楽法要)のご案内

大谷婦人会会員以外の一般の方のご参拝もお待ちしています。

期日・会場 4月9日(日) 真宗本廟 御影堂

日 程	13時	宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要(音楽法要)、兼物故会員追弔法要・春季永代経法要
	14時	全国大会 / 式典 挨拶:大谷サチカ会長 木越渉宗務総長
	15時	記念法話 講師 池田勇諦氏 (三重教区西恩寺前住職) 講題 「とどけようナンマンガブ」の使命感 池田勇諦氏
	16時半	閉会

申込締切 3月10日(金)

※参加を希望される方は、下記事務局へ電話もしくはメールにてお申込みください。お申込み後、詳細をご連絡します。

※事前お申し込みの方[参加費加金3,000円]にはお席を確保いたします。パンフレット、記念品(ブランケット、池田勇諦氏選の日めくりカレンダー、法要記念品(畠中光享氏 画)、バッグ)付

お申込み・お問い合わせ

しんらん交流館内 真宗大谷派大谷婦人会 事務局
TEL:075-371-6181(月曜～金曜 9:00～17:00)
メール: otani-fujinkai@higashihonganji.or.jp

慶讃法要ボランティア募集！

「慶讃法要ボランティア」としてご協力いただける方を募集しています。真宗本廟で、全国の御同朋とともに慶讃法要をお迎えしませんか。多くの方々の参加をお待ちしております。

募集対象 真宗大谷派の僧侶・門徒・関係学校の学生
応募方法 所定のエントリーシートに必要事項を記入のうえ、右記応募先まで郵送またはFAXにて提出ください。
※エントリーシートは宗派ホームページよりダウンロードできます。
※郵送をご希望の場合は右記「慶讃法要ボランティア募集係」へご連絡ください。
応募締切 2023年2月28日(火)
募集内容 ①清掃・接遇業務 ②境内催事「憩いのひろば」「子どものひろば」のお手伝い

応募・お問い合わせ 真宗大谷派宗務所総務部 慶讃ボランティア募集係
〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上る常葉町754番地

TEL:075-371-9272
FAX:075-371-1214

※詳細は慶讃特設サイト「お知らせ」をご参照ください。

慶讃特設サイトは
こちらから



宗祖親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要

あなたのご参拝を
お待ちしております

どなたでもお申し込いただける
「一般参拝(指定席)」を募集しています



御影堂

お一人からお申し込いただける「一般参拝(指定席)」の申し込みを受け付けています。
法要にご参拝いただき、1日ゆっくりと真宗本廟でお過ごしいただけるよう、さまざまな催しがあります。
一生に一度のご法要にご家族、お友達とぜひご参拝ください。

慶讃テーマ館

境内の高廊下・参拝接待所ギャラリー・視聴覚ホール
一体を「慶讃テーマ館」として、親鸞聖人の生涯や教え
にふれ、慶讃法要と慶讃テーマからの問いかけを共に
考えていくパネル展などを開催します。「慶讃寄席」で
は桂小春團治さんによる真宗落語の上演が、特別展示
では親鸞聖人が9歳の時に得度された時に使用されたと
青蓮院門跡に伝えられる「剃刀」の展示もあります。



憩いのひろば・子どものひろば

境内南側にはさまざまなワークショップ(事前申込優
先)が体験できる憩いのひろばと、体を使って楽しく遊
べる子どものひろばがあります。また、井波彫刻師によ
る東本願寺の彫刻ガイドツ
アーもあります。(3/26、4/2、
16、23、24のみ) 詳しくはこちら



ワークショップ



井波彫刻
ガイドツアー

門前エリア

慶讃法要のはじまりにあわせ、東本願寺前に「市民緑
地」がオープン。土日には京都ゆかりのお店などが出店
する「マルシェ」を実施。平日にはキッチンカーの出店が
あります。渉成園にも足をのばしてみませんか。

申込方法

「一般参拝申込書」に必要事項を記入のうえ、団体参拝受入
センター(下記)へメールまたはFAXにてお申込ください。

- ・空席がある日に限り、先着順にて受け付けます。
※慶讃特設サイトより空席状況をご確認ください
- ・参拝席の指定はできません。
- ・参拝席・お斎・慶讃寄席セットに加え、「お斎のみ」「慶讃寄席
のみ」の申し込みも受け付けています。

「一般参拝申込書」の
ダウンロードはこちらから



空席状況に
ついてはこちらから



募集締切

2023年2月中旬

申込・お問い合わせ

団体参拝受入センター

TEL 075-371-9212

FAX 075-371-9204

メール

dantaisanpai@higashihonganji.or.jp

慶讃法要パンフレット
をぜひご活用ください

ダウンロードはこちらから



ご案内

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、休館日・
開館時間及び掲載内容について、中止・延期もしくは日程等を
変更する場合がありますのでご了承ください。

真宗本廟(東本願寺境内) 京都市下京区烏丸通七条上

- ◇晨朝(おあさじ)【場所】阿弥陀堂及び御影堂 【時間】毎日7時～
- ◇晨朝法話 【場所】御影堂 【時間】毎日7時30分頃～
- ◇真宗本廟法話 【場所】参拝接待所仏間 【時間】通常10時10分～/
13時10分～ 速夜日(12・27日)13時10分～ 御命日(28日)9時30分～
※その他、時間・会場を変更する場合があります。
- ◇参拝接待所ギャラリー 【時間】9時～16時
「親鸞聖人のご生涯」(常設展)開催中
「蓮如上人御影道中」展 2月16日～3月21日

詳しくは、真宗大谷派ホームページまで

東本願寺

検索

しんらん交流館 京都市下京区諏訪町通六条下上柳町199番地

真宗本廟(東本願寺)へご参拝の際には、ぜひ真宗教化センター しんらん交流館にお立ち寄りください。
開館時間/平日 9時～18時 土日祝 9時～17時 休館日/毎週火曜日

- ◇2月の定例法話 【場所】1階 すみれの間 【時間】毎日14時～(27日10時～)
※毎週火曜日、2月12日は休会、その他都合により休会する場合があります。
- ◇2月の東本願寺日曜講演
【場所】2階 大谷ホール 【時間】9時30分～11時
【講師】◆2月5日…三明智彰(九州大谷短期大学学長) ◆12日…休会
◆19日…渡邊晃純(岡崎教区守綱寺前住職)
◆26日…松金直美(教学研究所研究員)
- ◇交流ギャラリー(1階) 【時間】開館時間に同じ
「柳宗悦がであった土徳～人と自然がはぐくんだ越中富山の美～」展
【期間】開催中～2月10日(金)
- ◇しんらん交流館 Tera School 【場所】1階 すみれの間
【日時】毎週月・金曜日 18時30分～20時30分
【対象】小学3年生～高校3年生 ※幼児教室もあります。 <http://www.teraschool.jp>



東本願寺いのちとこころの相談室 【TEL】075-371-9280

【開室時間】毎週木曜日 13時～17時(祝日または休館日、その他行事日は閉室)

全国のお寺での取り組みや読みもののページなど、
さまざまな情報を発信しています。

浄土真宗ドットインフォ

検索

読者のお便り

つながり

北海道在住 男性(73歳)

13年前、息子を亡くしたことをきっかけに、お寺に
足を運ぶようになりました。お寺までは車で10分ほ
どの距離で、遠いわけではありませんが、それまでは、
お寺に参ることに対して気が重く感じていました。
お寺に足を運び始めると、お彼岸の法要や永代経
など、一年を通していろいろな行事があることを知り
ました。行事に参加するたびに、住職さん、坊主さん
や、お参りに来ているご門徒さんたちと他愛もない
話をし、だんだんお付き合いでする友人も増えまし
た。今では、あんなに気が重かった寺参りが、私の心
にすっと入ってきた気がしています。
息子との別れを縁として、お寺を通して、ひとと出
あい、つながる温かさを感じています。

お便り募集

「同朋新聞」の感想をはじめ、日々の思いなどを寄せてください。

宛先 Eメール shuppan@higashihonganji.or.jp
FAX 075-371-9211

〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上 東本願寺出版 同朋新聞編集係
住所氏名・年齢・電話番号を明記して送りください。
紙幅の都合上、掲載時は添削・抜粋させていただきます。



本稱寺における「勿忘の鐘」
(2022年3月11日)

3.11 東日本大震災

「決して忘れない」。
震災を心に刻み、犠牲者に思いを馳せ、
今後も復興と支援の思いをつなぐ。

3月11日午後2時46分。東日本大震災から12年を
迎えようとしています。震災後間もなく、ボランティア
の手によって瓦礫と泥の中から引き上げられた陸前
高田市、本稱寺の梵鐘。住職の佐々木隆道さんが被
災後に語った「忘れないでください。それが被災地の一番の願いで
す」との声に呼応し、各地で鳴らされてきた「勿忘の鐘」は今年で12
回目。「明日は自分の身に、そして大切な人の身に起こりうる」と
いう被災地からの声として今も鳴り響きます。

入館状況については、研修部まで
お電話でお問い合わせください。

2023年 真宗本廟奉仕のご案内

宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要

◆「慶讃法要奉仕団」・「讃仰奉仕団」・「真宗本廟奉仕 体験奉仕団」

【第一期法要期間】

2泊 ①3月25日(土)～27日(月)
2泊 ②3月28日(火)～30日(木)
2泊 ③4月 1日(土)～ 3日(月)
2泊 ④4月 6日(木)～ 8日(土)

【第二期法要期間】

2泊 ⑤4月15日(土)～17日(月)
2泊 ⑥4月18日(火)～20日(木)
2泊 ⑦4月21日(金)～23日(日)
2泊 ⑧4月24日(月)～26日(水)
2泊 ⑨4月27日(木)～29日(土)

【讃仰期間】

2泊 ①4月 9日(日)～11日(火)
2泊 ②4月12日(水)～14日(金)

詳しくはこちら



申込締切 2023年2月24日(金)

「宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要」の期間に募集している奉仕団です。慶讃法要にお遇いする大切な時を一緒にお迎えしませんか。

※「真宗本廟奉仕 体験奉仕団」は上記「慶讃法要奉仕団」期間中に開催いたします。

参加費(共通)

②泊3日 18,000円、米2kg(1升4合)または米代1,300円
①泊2日 13,000円、米1.2kg(8合)または米代800円

※上記は大人(15歳以上)の場合です。※讃仰奉仕団は「御旧跡参拝参加費」として別途5,000円が必要です。

真宗本廟奉仕を機に、
ぜひ 帰敬式 を受式ください。

◆ 真宗本廟 おみがき奉仕団

2泊

7月4日(火)～6日(木)

1泊

7月4日(火)～5日(水)

盂蘭盆会を迎えるにあたって、阿弥陀堂や御影堂の仏具のおみがきを日程の中心とした奉仕団です。

申込締切 2023年5月25日(木)

【お問い合わせ】同朋会館・研修部 TEL:075-371-9185

・受け入れ状況などの情報は、同朋会館ホームページでご覧いただけます。
・ご入館される皆様に安心してお過ごしいただけるよう、新型コロナウイルス感染症予防対策を実施し運営しています。
・具体的な対策については、同朋会館ホームページよりご確認ください。



真宗本廟奉仕
参加者の声を
ご紹介

両堂参拝、諸殿拝観、
御影堂門の奉仕作業など
なかなか経験のできない事を
させて頂き、感動しました。
(70代女性)

今月号の『同朋新聞』を読んで、

プレゼント クロスワードパズル を完成させよう！

「タテのカギ」「ヨコのカギ」それぞれの設問に答え、
クロスワードパズルを完成させましょう！
2月号の『同朋新聞』を読むと、ほとんどの答えがわかります！！

※答えはすべて「ひらがな」でお答えください。

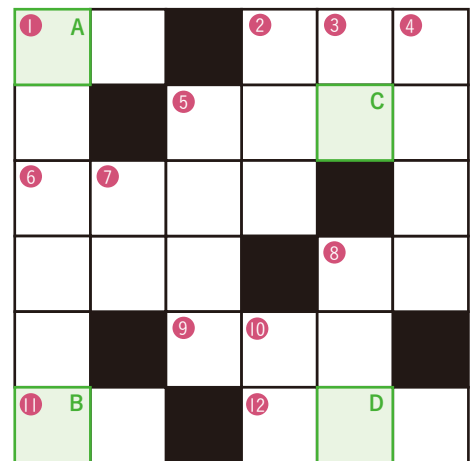
タテのカギ

- 慶讃法要をご縁として、「茶道裏千家〇〇〇〇〇〇家元」による供茶と讃仰茶会を開催します。(9面)
- 『人間といういのちの相』岸畑聖月さんは、「〇〇式会社With Midwife」の代表取締役です。(2・3面)
- 今月の特集は、「親鸞聖人の御誕生と〇〇〇〇う開宗の原点」です。(6・7面)
- 『親鸞聖人にであう』「法〇〇〇〇う人」は多くの人々から智慧第一と称賛されていました。(5面)
- 『親鸞聖人にであう』今月のタイトルは、「〇〇一言葉が届いて教えとなるー」です。(5面)
- 立教開宗八百年の「きょ〇〇〇法要」が勤まるのは、宗祖の主著『教行信証』中に記された元仁元年(1224年)を基点としています。(6・7面)
- 『聞一今月の法話一』今月の筆者は、高田教区の「梅ざ〇〇有」さんです。(8面)

ヨコのカギ

- 3月4日から12日まで、アートフェア『ARTISTS' FAIR KYOTO 2023』が、「渉〇〇園」で開催されます。(10面)
- 北海道教区お待ち受け大会では、記念ソング「〇〇〇コトバ」が披露されました。(9面)
- 『親鸞聖人にであう』親鸞聖人は、「ただ〇〇〇〇して阿弥陀さんにたすけられなさい」という法然上人の言葉をいただきました。(5面)
- 「〇〇〇〇会」は、門徒の代表として教化の振興をはかるため、組が行う施策について審議する機関です。
- 『聞一今月の法話一』今月のタイトルは、「〇〇〇に弱さで応答する」です。(8面)
- 『読者のお便り』今月のタイトルは、「〇〇がり」です。(11面)
- 昨年12月15日、「東本願寺前市〇〇〇よく地」整備に役立てていただくため、真宗大谷派から京都市への寄付金受納式が行われました。(9面)

答え



12月号のクロスワードパズルの答えは、

お
せ
い
ぼ

読者のこえ

(11月号を
読んで)

◆いつも期末テストと同じ日にちで、報恩講に行けなくて残念です。坂東曲を生で観たいです！(10代男性)
◆「子どものつどいin東本願寺」普段なかなかお寺に行くことがない子どもたちが、お寺に触れるいい機会だと思いました。楽しそうですね！(30代女性)

チャレンジ！

正解者の中から抽選で5名様に「東本願寺出版オリジナル図書カード1000円分」をプレゼントします！

郵便はがきまたはメールにて、①「クロスワードパズルの答え」②「郵便番号」・「住所」・「氏名」・「年齢」・「電話番号」と③『同朋新聞』の感想や紙面に関する要望を添えて、下記までご応募ください。今月号の締め切りは2月28日(火)(当日消印有効)です。

メールでも応募できます!!

はがきと同様に必ず上記①②③を記入し、「件名」に「同朋新聞2月号クロスワード応募」と入力のうえ
higashihonganjishuppan@gmail.comへお送りください。



応募はコチラ

【ご注意】◆当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。◆個人情報情報はプレゼントの発送および紙面づくりの参考に使用し、それ以外の目的には使用しません。◆感想は「読者のお便り」に掲載する場合があります。
◆本クロスワードパズルは、独自のルールに基づいて作成しております。

宛先 〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上る
東本願寺出版「クロスワードパズル係」まで

編集室
だより

◇昨年末、叔父が亡くなり葬儀に参列しました。教員をしており、いつも子ども目線で優しかった叔父との別れの悲しみとともに、自分もいつかは…と深く考えました。しかし、しばらく経つと再び元の生活に戻ってしまう私。4面「現在を生きる」の堀さんの「生きつつも死につつもある身」の一言に、「そうだった。私も今、生死ある身を生きているんだ」とハッとし、生きることが当たり前となっている自身を再確認しま

した。◇慶讃法要まで2カ月を切りました。『同朋新聞』ではこれまで慶讃事業のさまざまな特集が組まれ、各号のテーマを通して一人ひとりがどう法要をお迎えするかなどの情報を発信してきました。その時々で考え感じた思いとともに、たくさんの方とお念仏を申すことのできる時をいよいよお迎えします。親鸞聖人のご生涯と願いを確かめる法要を皆さんとお迎えできることを心から楽しみにしています。(林)

伝統の技を一堂に… 京仏壇ミュージアム

京都へお越しの際はぜひお立ち寄りください。(京都本社5階)



お仏壇・仏具はやっぱり京都！合掌の心と共に194年

◆お仏壇・お仏具の事なら何でも
お気軽にご相談ください。

☎ 0120-37-8585 各店共通

お内仏を中心とした生活・帰敬式実践運動のさらなる展開を願って…

【真宗大谷派 ご推奨品】

三折御本専用 御厨子 価格 44,550円(税込)

※上記価格に三折御本尊、仏具は含まれておりません。

※荷送料は別途です。

※写真は別売りのAセット(12,650円・税込)仏具入りです。

※価格はいずれも税込です。

- 仕様：木製外回り内部各段扉など黒塗り仕上げ内部三方板金色仕上げ、扉には打掛金具打ち(金メッキ)小型三折御本専用黒塗り台付(高さ4.5cm)
- 寸法：屋根張30cm 下幅27cm 奥行18.5cm 高さ37.5cm
- ◆全国各教務所様、並びに弊社本支店に現物見本がございます。
- ◆パンフレット・資料をお送り致します。ご請求ください。



※御本尊は本山からお受けしましょう。
(三折御本尊 小型 台なし)



創業天保元年 伝統工芸 京仏壇・京仏具

株式会社 若林佛具製作所

文化財修理 社寺内装・外装工事



株式会社 若林工芸舎

京都本店 〒600-8218 京都市下京区七条通新町東入
築地店 / 札幌店 / 仙台営業所 / 福岡営業所

寺院用オンラインショップをオープンしました！
wakabayashi-jiin.com 若林仏具 オンライン

https://www.wakabayashi.co.jp/